

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和3年1月30日

事業所名 放課後等デイサービス楽喜

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○			※中や外を利用したり、空いたスペースで運動器具を設置しています。	
	2	職員の配置数は適切である	○				
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている			○		※出入りに段差があるが、必要となれば、スロープ等の作成をしていきたい。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○				
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○				※昨年に開所し、今回初のアンケートを実施。保護者向け評価表を活用し、保護者の方の意向の把握に努めていきたい。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○				※昨年に開所して初めての試みではありませんが、今後、公開していきます。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている			○		※第三者による外部評価は行っていませんが、関係機関からの助言等を受け止め業務改善につなげています。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○				※外部の研修やリモート研修も参加しています。
適切な 支援の 提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	○				※見学や体験時、又は送迎の際にニーズを把握したり、行動観察を記録し、支援計画を作成しています。 また、必要に応じて利用者が発達センターや医療機関で行った検査結果をお持ちいただき発達状況を把握しています。
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○				
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	○				※ミーティング等で職員1人ひとりが話しやすい環境をつくり意見を言い、支援の仕方や活動の進め方を共通理解の元取り組んでいます。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○			※常に新しい活動を考えケガのリスク等も想定し実施するようにしている。	※中や外、活動が被らないよう、また、新たな活動を考え取り組んでいます。また、季節に応じたイベントも取り入れています。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	○			※休日には平日にはできない・行けない活動を考えられています。	
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	○				
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○			※その都度、何かあれば共有し、ミーティング等でも再度、確認し合っています。	※その日の送迎時や翌朝に昨日の利用児の様子や活動の流れ、支援方法を確認し合い終わった後も振り返りを行い、記録しています。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○				
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○				
18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	○				※6カ月に1度、支援計画を見直しを行っています。	
19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っている	○					

		チェック項目	はい	どちらとも いいえ	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
関係機関 や保護者 との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者 会議にその子どもの状況に精通した最もふ さわしい者が参画している	○				※開催される場合、児童発達支援管理者等 の適任者が出席しています。
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等 の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡 調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連 絡)を適切に行っている	○			※利用児に声を掛け確 認。また、学校配信のメ ールも登録して確認してい ます。	※日々、利用児に学校からのお手紙がある か・ないかの確認をしています。また、担任の 先生や保護者から通して情報を得たりもして います。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場 合は、子どもの主治医等と連絡体制を整え ている		○			※医療的ケアが必要な子は保護者との話し 合いをしています。職員は障害や病気への 理解を努め、安心して参加できるよう体制を 整えています。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認 定こども園、児童発達支援事業所等との間 で情報共有と相互理解に努めている			○		
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業 所から障害福祉サービス事業所等へ移行す る場合、それまでの支援内容等の情報を提 供する等している			○		※移行した利用児がいません。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援セ ンター等の専門機関と連携し、助言や研修 を受けている			○		※受講していませんが、今後そのような機会 があれば参加していきたい。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障 がいのない子どもと活動する機会がある		○			※療育の実施時間が限られており、難しい状 況となっておりますが、現在、知り合いを通し て畑を借り地域での活動を考えています。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加 している			○		
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合 い、子どもの発達の状況や課題について共 通理解を持っている	○				※連絡帳や送迎時に保護者の方へ様子等を 伝え合っています。
保護者 への説明 責任等	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保 護者に対してペアレント・トレーニング等の支 援を行っている		○			※ペアレント・トレーニングのプログラムは 行っていないが、連絡帳・送迎時の引継ぎ時 に対応方法などのアドバイスの機会を設けて います。
	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等につ いて丁寧な説明を行っている	○				※契約時に説明を行っております。また、随 時不明な点は職員が説明するようにしてい ます。支援の内容については支援計画の説明 でお知らせしています。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談 に適切に応じ、必要な助言と支援を行って いる	○			※職員間で話し合い、そ の子に合った支援を助言 している。	※職員間で話し合い、連絡帳や送迎時の保 護者の方へ引継ぎの際に応じています。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等 を開催する等により、保護者同士の連携を 支援している			○		※コロナの影響もあり開催していませんが、 今後検討していきたい。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応 の体制を整備するとともに、子どもや保護者 に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適 切に対応している	○				※苦情があった場合、職員間で共有して適 切な対応するよう努めています。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事 予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者 に対して発信している	○			※その時期にあった活動・そ の時期を感じてほしいこと あり、時期の活動を取り入 れるようにしています。	※月間予定での活動予定をお便りでお知ら せしています。
	35	個人情報に十分注意している	○				※個人情報が記載された書類は鍵付きの キャビネットに保管しています。
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎 通や情報伝達のための配慮をしている	○				※わかりやすい伝達方法を工夫したり、伝わ る方法を利用者や保護者に合わせるように しています。
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等 地域に開かれた事業運営を図っている			○		

		チェック項目	はい	どちらとも いいえ	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
非常時等の 対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	○				
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○			※児童にもどのような行動が良いか考えさせ、絵を見せわかりやすいようにしている。	※年に2回、災害に備えて避難訓練を実施し、利用児にもどのような行動が適切か伝えていきます。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○				※外部の研修に参加したり、職員間で話し合っています。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している			○		※現在対象児はおりません。しかし、本人の生命や身体保護への緊急を要する場合は職員の共通認識としています。また、行った場合、保護者の方へ説明していきます。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている			○		※現在、アレルギー持ちの対象児がいませんが、あるのであれば、取り入れないよう確認していきます。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○				※危険な事例があった場合は、記載しファイリングし、ミーティングを通して職員で共有していきます。